

C-4

下顎犬歯部に発生した過剰歯の1例

○一木数由

(医療法人健栄会門司歯科医院)

【緒言】

小児歯科領域で認められる過剰歯は上顎正中部に出現することが多い。今回矯正治療後経過観察中に、左下犬歯部に過剰歯が発生したので報告する。なお、本症例の発表については本人と保護者の同意を得ている。

【症例】

初診日 平成20年2月9日

年齢 10歳7か月男児

主訴 下顎前歯の歯並びが気になる。

平成22年3月から矯正治療を開始。平成26年2月保定開始。平成28年12月パノラマエックス線写真で左下犬歯部に不透過像が認められる。平成28年12月パノラマエックス線写真とデンタルエックス線写真で左下犬歯部に歯牙様不透過像が認められた。

処置 エックス線写真検査の結果、過剰歯は順生のため、萌出を待って抜歯することとした。

経過

平成30年3月過剰歯が萌出したので抜歯した。

【考察】

小児歯科では正常に永久歯列と交換し、第二大臼歯萌出が完了して永久歯咬合が完成したところで、一般歯科へと範囲が変わる。しかし、今回のように永久歯咬合が完成した後に出現する過剰歯もあるので、小児歯科での管理期間について成人してからも必要であることが示唆された。

D-1

新しい家族を迎える患児と保護者への出産時における口腔衛生指導

○池本 真実

(医療法人 ゆきなり小児・矯正歯科)

【目的】

担当している患児の母親が、初診時から現在に至るまで3度出産を経験している。出産前後になると子どもに対して時間がなかなか取れなくなり口腔内の状態が悪化する傾向がある為、食生活指導や口腔衛生指導を行ってきた。その内容や経過を報告する。

【経過・結果】

初診時年齢：2歳3ヶ月

性別：男児

主訴：歯並びが気になる。歯ぐきが腫れていて口臭も気になる。

既往歴：特記事項なし

家族構成：父・母（妊娠中）・本人

初診時、口腔内清掃状態不良で、歯肉の腫脹もみられた。母親が来月出産予定の為、出産前後の口腔管理指導を行った。3ヵ月後、定期健診で来院。父親も協力的のようでブラッシング回数も増えており、出産後でしたが口腔衛生状態も良好。以降も3ヵ月ごとに定期健診で来院。その中でさらに2度の出産を経っていますが、現在も口腔衛生状態は良好です。

【考察】

出産前後は、上のお子さんに向き合う時間が少なくなってしまう、それまで良好に保っていた口腔衛生状態が悪くなる傾向にある。出産前からそのことを保護者の方に理解してもらい、どのように対応していくかを一緒に考える事が大事だと思われる。そして実際に家庭で実践してもらうことで本症例では3度の出産時でも口腔衛生状態を良好に保つことが出来た。これからも患児の成長や家庭の変化に合わせて指導、管理を継続していく。